



北九 畠山代議員



北九 福崎代議員

・年末手当について 減収のため年末手当が減らされるのではと職場では話題となっている。これまでためてきた内部留保はいざという時のためと云ってきしたが、今がその時であると思う。JR九州に内部留保金がいくらあるのか明らかにすべき。内部留保金は現金では持っていないと言うが、現金化をすることはできるはず。手減額をさせない取り組みをお願いしたい。

・豪雨災害について 受け持ち線区であった日田彦山線はBRTになったが、社長の話を聞いていると次のターゲットは肥薩線だと危惧をしている。しっかり会社を監視していく必要がある。

・年末手当について 職場での若手の声は諦めなのか、他人事のような。こうした状況だから無理な要求はしてはいけない。T・5カ月あればいい」との声も出ている。しかし、毎月の家計は赤字で、ポナナスで補填しているのが実態である。持ち家や車のローンなど組んでいる人は大変と思う。コロナ禍でも社員は懸命に働いている。ポナナスは、業績に連動しないと、これまで業績が良い時でもあまり額は増えてこなかったが、社長はビデオで今回は連動すると言って減額をほめめかすなど矛盾している。減収による手当の削減に対して声を上げるべきだ。



博多 穴井代議員



・博多地区本部の現状について コロナ禍で運動が自粛となり、組対会議の延期・中止が続いて

いる。退職者の送別会を博多で計画したが退職者の方から博多地区を警戒して辞退者が多く出たため結果、少人数で開催せざるをえなかった。組合員の減少で、役員の担い手が中々みつかからない。会議を設定しても範囲が広くなりあつまりが困難となっている。そのためにも、リモート会議の導入を計画できないか検討をお願いしたい。組織拡大について成果は中々でないが、職場で相談事になったり、レクなど誘ったりしてつながりを持ってやっていると。国労の5年ビジョンの先を見据えて奮闘していきたい。